

## 天声人語

目立たなくても注目するべき  
できごとがある。先日、憲法改  
正の手続きを定めた改正国民投  
票法が成立するにあたり、参院  
憲法審査会が付帯決議をした。  
安倍政権への警鐘とも読めそう

な内容だ▼憲法解釈はどうあるべきかについて決議は述べる。いわく、解釈は政府が自由に変更できる性質のものではない。便宜的、意図的に変更すれば憲法規範そのものに対する国民の信頼が損なわれかねない、と▼これは政府が過去に繰り返してきた公式見解をそのまま引用した文言だ。決議は、それを十分に踏まえよと政府に求めている。首相が解釈の変更で集団的自衛権を使えるようにしようとしている折である。その邪魔にもなりうる決議に、自民党が賛成した事実は軽くない▼民主党の小西洋之<sup>ひらふみ</sup>参院議員が渋る自民党と交渉し、可決に持ち込んだ。決議はまたいわく、解釈を変えようとするなら国会で十分審議せよ。この項目を根拠に小西氏は、首相がもくろむ閣議決定の前に、まず国会で議論すべしと政府に迫っている▼決議に法的な拘束力はないが、審査会としての意思表示は重い。憲法解釈は、憲法によって権力を縛るという立憲主義の原理に基づくべし、ともうたっている。そこには、解釈変更に対する陣営が政権と切り結ぶための足がかりが潜む▼9条に限らない。公明党と創価学会の関係に対する政府見解を「政教一致」と認定し直す可能性に触れる発言が、政権周辺から飛び出した。どれもこれも解釈変更か。危なすぎる。